

北の光をうたう 中野北溟の世界

二〇〇九年九月十九日（土）〜十月十八日（日） 北海道立近代美術館

主催／北海道立近代美術館、北海道新聞社、毎日新聞北海道支社、S・T・V札幌テレビ放送 協力／J・R北海道、ギャラリーシリーズ

中野北溟は、一九二三（大正十二）年に、北海道北部の焼尻島に生まれた書家です。北海道第三師範学校に学び、教職のかたわら金子鷗亭に師事しました。現在、北海道書道界の指導的存在であり、国内外で高い評価を受けています。

中野北溟が重要な主題として取り組んできたのは、日本近代の詩文です。言葉の韻律や文字に触発されながら、滲（ニジ）みやかすれ、余白など墨の特性を生かして、味わい深い清新な表現を生み出してきました。そこには、北海道の風土に根ざしたみずみずしい生命のリズムが息づいています。

本展では、北海道の詩人・原子修の長篇詩「原郷創造」による連作、北欧の叙事詩「カレワラ」による連作、「海」をテーマとする作品群、さらに初期から近年までの作品を加えた四部構成による全八十点により、中野北溟の書業をご紹介します。

No. 作品名

制作年

技法・材質

所蔵

読み ※原書と第二章の読みは反対面に掲載した。

第一章 原郷創造

- 1 原郷創造 序の詩より 二〇〇九（平成二十） 墨・紙、十九枚組
- 2 原郷創造 北の大きな島 二〇〇九（平成二十） 墨・紙、六枚組
- 3 原郷創造 夜の海の歌 二〇〇九（平成二十） 墨・紙、三枚組
- 4 原郷創造 北への恋歌 二〇〇九（平成二十） 墨・紙、二十二枚組
- 5 原郷創造 名付の祭り 二〇〇九（平成二十） 墨・紙、七枚組
- 6 原郷創造 誕生 二〇〇九（平成二十） 墨・紙
- 7 原郷創造 使命の分かちあい 二〇〇九（平成二十） 墨・紙
- 8 原郷創造 言葉 二〇〇九（平成二十） 墨・紙、五枚組
- 9 原郷創造 天空受胎 二〇〇九（平成二十） 墨・紙、九枚組

第二章 カレワラの光彩

- 10 「序詩」より 一九九八（平成十） 墨・紙、四枚組 札幌市
- 11 「天地創造」イルマタルの懐妊より 一九九八（平成十） 墨・紙、二枚組 札幌市
- 12 「天地創造」万物創成より 一九九八（平成十） 墨・紙、四枚組 札幌市
- 13 「ワイナミヨイネン」(前編)ワイナミヨイネンの誕生より 一九九八（平成十） 墨・紙、二枚組 札幌市
- 14 「ワイナミヨイネン」(前編)風聞より 一九九八（平成十） 墨・紙 札幌市
- 15 「サンボ物語」ポホヨラの美女より 一九九八（平成十） 墨・紙 札幌市
- 16 「サンボ物語」覚醒より 一九九八（平成十） 墨・紙、二枚組
- 17 「サンボ物語」米襲より 一九九八（平成十） 墨・紙、二枚組
- 18 「サンボ物語」奪戦より 一九九八（平成十） 墨・紙、三枚組
- 19 「サンボ物語」結末より 一九九八（平成十） 墨・紙
- 20 「ワイナミヨイネン」(後編)カンテ作製より 一九九八（平成十） 墨・紙
- 21 「ワイナミヨイネン」(後編)裁きより 一九九八（平成十） 墨・紙
- 22 「ワイナミヨイネン」(後編)幼児の反証より 一九九八（平成十） 墨・紙
- 23 「ワイナミヨイネン」(後編)退去より 一九九八（平成十） 墨・紙 佐久市立近代美術館
- 24 「ワイナミヨイネン」(後編)退去より 一九九八（平成十） 墨・紙、二枚組
- 25 「ワイナミヨイネン」(後編)ワイナミヨイネンの出立より 一九九八（平成十） 墨・紙、二枚組 札幌市
- 26 「サンボ物語」奪戦より不滅の賢者 一九九八（平成十） 墨・紙 個人

第三章 海

- 27 北海 吉田一穂詩 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 北溟の彼方金色の回想に閃える放浪の水の遡る瀬なき金色の光芒いま朔北の滄溟に
- 28 金色の光芒 二〇〇五（平成十七） 墨・紙、二枚組 膨れくる春の大海や囀とよ
- 29 膨れくる 村上馨月句 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 膨れくる春の大海や囀とよ
- 30 一 一九六一（昭和三十六） 墨・紙 個人 海 わたしのはじまり
- 31 海 原子修詩 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 海は古代の乳
- 32 海 原子修詩 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 海 ふるざとは北 ふるざとは荒野と海 ふるざとは遠い日々
- 33 ふるざと 原田康子にも 一九八三（昭和五十八） 墨・紙 海 ふるざとは北 ふるざとは荒野と海 ふるざとは遠い日々
- 34 渺茫の海 ワグマヤウ 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 渺茫の海朔北
- 35 北の海 中原中也詩 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 北の海 海にゐるのはあれは人魚ではないのです 海にゐるのはあれは浪ばかり
- 36 海の音 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 海 朔風 凜々と
- 37 朔風 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 大海原ばかりではなく宝石の中にも閉じこめてしまいたいと思う海
- 38 宝石の中にも 原子修詩 二〇〇五（平成十七） 墨・紙、二枚組 大海原ばかりではなく宝石の中にも閉じこめてしまいたいと思う海
- 39 耳 ジャン・コクトオ詩 細口大学訳 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 個人 耳 私の耳は貝の殻の響きをなつかしむ
- 40 海が光る 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 海 永劫回帰の水車
- 41 海のような風 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 きこえる 波のさざめきがきこえる だれが私に海の音をとどけてくれたのだ
- 42 波のさざめきがきこえる (二) 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 ある日わたしは 静まりかえった海にむかっつおやきました 夕暮れの海は黙ったまま涙をじませました その日からわたしは無口になりました
- 43 涙の海 湯田寛衛詩 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 光の柱が海を
- 44 光の柱 一九九六（平成八） 墨・紙 吹き鳴らせ天末たぐる潮笛
- 45 海 原子修詩 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 海の方より風のかく
- 46 海の方より 二〇〇四（平成十六） 墨・紙 個人 潮騒の指で摘めよ漁火
- 47 海 原子修詩 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 海 無限に液化するわたしよ
- 48 海 原子修詩 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 海 極みにして嘆きつつ潮は落魄の路を漂流つてゆく
- 49 蒼海の鷺 アサギ 一九九三（平成五） 墨・紙 夢 海をめざす
- 50 蒼茫の海渡る 原子修詩 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 海が光る 風が光る
- 51 光る (一) 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 個人 母為記定文也
- 52 夢 宗左近による 二〇〇五（平成十七） 墨・紙、二枚組 大江花々春将暮 楊花飄々点箱衣 一聲漁歌香露程 無限愁腸為誰移
- 53 海 原子修詩 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 勸君盍臨 瀟湘不須辞 花發多風雨 人生足別離
- 54 北海 吉田一穂詩 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 母為記定文也
- 55 浪ばかり 中原中也詩 二〇〇五（平成十七） 墨・紙 母為記定文也

第四章 光の束

- 56 「曇龍顔碑」臨 二〇〇九（平成二十） 墨・紙、二枚組 勸君盍臨 瀟湘不須辞 花發多風雨 人生足別離
- 57 王羲之「楽毅論」臨 二〇〇九（平成二十） 墨・紙 母為記定文也
- 58 光明皇后「楽毅論」臨 二〇〇九（平成二十） 墨・紙 母為記定文也
- 59 顔真卿「東方朔画賛」臨 二〇〇九（平成二十） 墨・紙 母為記定文也
- 60 「山ノ上碑」臨 二〇〇六（平成十八） 墨・紙、二枚組
- 61 道通天地 一九九四（平成六） 墨・紙、二枚組
- 62 思無邪 一九九一（平成三） 墨・紙、二枚組
- 63 大地麗 二〇〇七（平成十九） 墨・紙、二枚組
- 64 遊神 二〇〇五（平成十七） 墨・紙
- 65 也太奇 一九八九（平成元） 墨・紙、二枚組
- 66 舞 一九九〇（平成二） 墨・紙、二枚組
- 67 大江花々春将暮 良寛詩 二〇〇四（平成十六） 墨・紙 勸君盍臨 瀟湘不須辞 花發多風雨 人生足別離
- 68 「勸酒」 千武陵詩／井伏鱒一訳 二〇〇八（平成二十） 墨・紙 勸君盍臨 瀟湘不須辞 花發多風雨 人生足別離
- 69 雪華 二〇〇八（平成二十） 墨・紙、二枚組
- 70 玄中玄 一九九八（平成十） 墨・紙、二枚組
- 71 天空海闊 カイトウカイクワ 二〇〇二（平成十四） 墨・紙、二枚組
- 72 松聲萬壑 マツノネ 二〇〇〇（平成十二） 墨・紙、二枚組
- 73 一瞬 一九九〇（平成二） 墨・紙 札幌市 一瞬 風のなか瞬
- 74 ひかりにうたれて花がうまれた 八木重吉詩 一九九〇（平成二） 墨・紙
- 75 つぼみ 二〇〇七（平成十九） 墨・紙、二枚組
- 76 光の瞳 宗左近詩 一九九〇（平成二） 墨・紙
- 77 地球の一角 一九九八（平成十） 墨・紙
- 78 神様あなたに会いたくなくなった 八木重吉詩 一九八八（昭和六十二） 墨・紙
- 79 走り根の先まで灼けて開拓地 二〇〇八（平成二十） 墨・紙
- 80 よろこび 二〇〇六（平成十八） 墨・紙、二枚組 ギャラリーシリーズ